

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>



スマートキッズプラス本八幡

カラフルな色や形を使うことでいろんな友達がいることを表現しました。よく見ると8個の形が使われています！じっくり見てください。

子どもの「居場所」をつくるスマートキッズの取り組み

村上 浩将（臨床心理士・公認心理師）

2月21日(金)のスマートキッズ発達支援研究所オンラインイベントにて行った、スマートキッズにおける子どもの「居場所」づくりについての講演内容を改めて整理し、事例を交えてご紹介していきます。

子どもの「居場所」という言葉には、大きく分けて「安全で安心できる居場所」と「自分の力を発揮し、成長できる居場所」という2つの意味があると考えています。それぞれについて、お話していきます。

① 安全で安心できる居場所

スマートキッズが子どもにとって「安全で安心できる居場所」であるためには、第一に「命や怪我の危険がない」ことが必須条件です。環境面での安全管理はもちろんのこと、日々の研修等を通して職員の危機意識を向上するため、職員同士での危機管理の練習や、虐待防止のための話し合い等を行っています。また、教室を利用する子どもたちに沿ったルール設定(教室内を走らない、ボール遊びをする場所を決める等)も、子どもたち自身が「ここは安全だ」と感じるために大切なものとして取り組んでいます。

第二に、スマートキッズが「安心できる場所」であることも重要な条件です。適度にリラックスできる場所であること、1日の見通しが立つこと、また「自分はここにいていいんだ」と思えることが安心につながります。そのためにスマートキッズでは、子どもにとって「分かりやすい教室」を目指しています。例えば、以下のような視覚提示です。

- ・1日のスケジュールをイラスト付きで掲示する。
(右のように、時計のイラストを入れることが多いです)
- ・個別のスケジュールカードを用意して、必要な子どもに分かりやすく示す。
(「入室してからやること」「おやつ前にやること」等)
- ・並ぶ場所や待つ場所の床にカラーテープを貼って、見やすく示す。

こうした「分かりやすい教室」づくりによって、子どもたちは今日は何をするのか、いつ帰れるのかを心配しなくて済むようになり、また並び場所や細かい手順などをいちいち口頭で指示されなくても、自分で動けるようになります。ちょっとしたことで叱られることが減り、むしろ褒められることが増えて、「スマートキッズでは、自分は認めてもらえているな」という感覚につながります。これが「安心できる場所」につながるのです。



しかし、どんな視覚提示をすれば分かりやすいのか(大きさや色、ひらがな、数字等)は、子ども一人ひとりで異なります。そのため、「アセスメントシート」を用いて、子どもたちそれぞれの強みや弱みを把握し、職員同士でしっかりと連携をしたうえで、アイデアを出し合っています。

② 自分の力を発揮し、成長できる居場所

スマートキッズの各教室では、ただ子どもの取り組みを助けるだけでなく、子どもが「自分でできる」ことを大切にしています。また同時に、それぞれの個性にあわせて「一人ひとりに活躍の場をつくる」ように意識しています。この2つによって、スマートキッズは「自分の力を発揮し、成長できる居場所」になっています。

まず、子どもたちが「自分でできる」教室にするために、以下のような支援や環境づくりをしています。

- ・「できたね！」と褒めるためのスモールステップでの課題提示
（「連絡帳を自分で出す」だけでも、「できたね！」と褒められます）
- ・おもちゃを貸るときも、自分で依頼ができる環境
（おもちゃの写真リストを掲示し、「貸してください」と自分で伝えられるように）
- ・将来の就労のための、スマートキッズジュニアの就労作業

子どもたちそれぞれのできることを、つまり強みを職員が把握し、毎日1つでも2つでも「できた！」を達成できるように取り組んでいます。

「一人ひとりに活躍の場をつくる」ための準備も同様です。教室の1日の流れの中で、「この子ならどんな活躍ができるか」を職員同士で検討し、さまざまな場面にそれを設定します。例えば、以下のような形です。

- ・小集団活動や集団活動に、個の目標を設定する。
（「みんなでボウリング」→ Aさんの目標:並び順を守る Bさんの目標:次の人にボールを「どうぞ」と渡す 等）
- ・係当番を設定する。
（「みんなでボウリング」→ はじめの挨拶係、ピンを直す係、点数記録係、おわりの挨拶係 等）
- ・目標を子どもたち自身に伝え、活動の終わりに振り返りやフィードバックをする。

また、2月28日から3月13日にかけて展示会を行った子どもたちのポスターについても、一人ひとりに「できること」や「活躍の場」をつくりながら制作しました。どんなテーマのポスターにするのか、どんな材料を使うのか、どんな色を中心にするのか。手を挙げて意見を話してもらうだけでなく、賛成か反対か手を挙げるだけでも、使いたい材料や色を指差しで伝えるだけでも、「自分の思いを伝えることができたね！」と、ステップを1段上がるための取り組みになるのです。



教室ごとに環境も異なれば、利用する児童の特性や性格も異なるため、子どもの「居場所」をつくる方法として、何か1つの正解があるわけではありません。しかし、スマートキッズが子どもたち一人ひとりにとって安全で、安心して自分の力を発揮、成長できる「居場所」であり続けるために、職員は日々研鑽を重ね、支援や環境づくりに取り組んでいます。ご家庭での支援や環境づくりについても、困ったことがあればぜひご利用教室までご相談ください。

<プロフィール>

村上 浩将（むらかみ こうすけ）

学校や児童発達支援、放課後等デイサービスにて、さまざまな個性がある子どもたちと直接かかわってきました。そして教育・心理の専門家として、一人ひとりの居場所をどのようにつくっていくのか、安心して成長できる場とはどんなものなのかを考え、実践してきました。これからも「スモールステップ」でお子さまのもつスキルを伸ばし、いずれはお子さま自身が自分で居場所をつくっていけるように、保護者の皆さまと力を合わせた支援を提供していければと思っております。よろしくお願いいたします。

